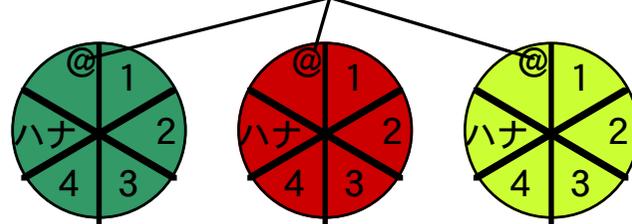


総合診断実習 院内感染対策実習 自己の手指培養の接種方法

1. 1人につきBTB乳糖加寒天培地（緑色）、血液寒天培地（赤色）、MRSAスクリーニング培地（黄色）をそれぞれ1枚ずつ、計3枚用いる。
2. 3枚とも蓋を下にして裏返し、直径に沿って60度ずつ角度を変えて底面にマジックで3本直線を引き、丁度6等分になるようにする。
3. 3枚とも、6等分された底面の各エリアに1から4まで番号を振り、残り2つのうちひとつに「ハナ」と書き、もう1つは失敗時

自分の培地が分かる印



の予備とする。

4. 3枚とも、底面のどこかに、自分のものであることがわかるように印を付ける。
5. 「感染予防の実習（火曜4～5時限）」の時間帯に、以下の手順で手術手洗い前後の手指培養の接種を行う。
6. 手術手洗い実習の前に、まずBTB乳糖加寒天培地（緑色）の蓋を開け、底面の番号1のエリアに相当する培地表面に、親指の腹をそっと押しつけて数秒間保持した後に離す。
7. 次に血液寒天培地（赤色）について、同じ親指を用いて同様に接種する。
8. 最後にMRSAスクリーニング培地（黄色）について、同じ親指を用いて同様に接種する。
9. 手術手洗い後に、今度は底面の番号2のエリアに相当する3種類の培地表面に、同じ親指を用いて同じ手順で接種する。
10. 「院内感染対策総論（水曜3時限）」の時間帯に、底面の番号3のエリアに相当する3種類の培地表面に、同じ親指を用いて同じ手順で接種する。
11. 同じ時間帯に、綿棒を用いて鼻腔粘膜を擦過し、底面の「ハナ」のエリアに相当する3種類の培地表面に接種する。
12. 「皮膚の消毒（水曜4～5時限）」の時間帯の、速乾性手指消毒薬使用後に、底面の番号4のエリアに相当する3種類の培地表面に、同じ親指を用いて同じ手順で接種する。
13. 接種後培地を医科新棟B棟3階の微生物検査室に持参し、担当の検査部職員に培養を依頼する。